

## 第3回御嶽山噴火に伴う木曾川上流域水質保全対策検討会の結果

(確認事項)

### 1. 現状について

- ・ 牧尾ダムにおいては、ダム貯水池内において水素イオン濃度（pH）の低下が確認されているが、魚類の斃死などの異常は見られておらず、最近の水素イオン濃度（pH）の回復傾向が見られる。
- ・ 牧尾ダムは、現在、平年と同様な利水運用を実施しているが、下流河川における水質上の問題は生じていない。
- ・ 平成27年2月10日現在、噴火直後より取水を停止していた関西電力濁沢川取水口地点の水質は、濁度 54、pH 6.7 となっており、噴火直後から白濁が続いていた濁沢川の水質がかなり改善してきている状況にある。なお、牧尾ダム貯水池上流である松原橋地点の水質は、濁度 31.7、pH 6.7（2月5日時点）となっており、貯水池への白濁の流入も減少傾向となっている。

### 2. 当面の対応方針について

#### ① 水質監視計画について

- ・ 調査頻度について、木曾川筋については、当面週1回の監視を継続するものとするが、飛騨川筋については、4月以降、原則月1回とする。
- ・ 融雪出水等により、貯水池の水質に大きな影響があった場合、必要に応じて監視体制を強化する。

#### ② 牧尾ダムの運用について

- ・ 牧尾ダム貯水池の水質を監視しつつ、3月上旬でEL 848mまで下げる通常運用を行う。
- ・ その後の牧尾ダム貯水池運用(3月末に向けた貯水池管理)は、気象状況、貯水池白濁化の状況等を勘案し、関係機関等と調整しつつ運用を行う。
- ・ 15m<sup>3</sup>/s以上の放流については、12月15日～12月18日に実施した試験放流と同様に中断基準を設け、2月16日以降増量放流(段階的に増量)を行う。
- ・ 実施の際には関係機関に情報提供を行う。

- ③ 濁沢川関西電力発電取水の再開について
- ・ 濁沢川の水質が改善してきていることから、2月13日を目処に濁沢川からの取水を再開し、御岳発電所の発電に利用する。（これにより牧尾ダムへ流入する白濁物質が低減される。）大雨などにより濁りが予想される場合については事前に取水を停止する。
  - ・ 濁沢川の取水再開にあたっては、御岳発電所の放水口地点で放流水の水質監視（pH、濁度）を行い、下流河川への影響を確認する。
- ④ 発電取水塔（三尾発電所取水口）の対策について
- ・ 発電取水塔（三尾発電所取水口）の取水による下流河川への影響を緩和するため、関西電力（株）は、牧尾ダム貯水池内の発電取水塔（三尾発電所取水口）において角落し工を施工する。
- ⑤ 試験放流の実施について
- ・ 発電取水塔（三尾発電所取水口）の取水による下流河川への影響を把握するため、4月下旬以降試験放流を行う。
  - ・ 試験放流時には、前回試験放流時と同様に水質調査等を計画・実施し、その影響を確認する。試験放流の詳細については次回報告する。
- ⑥ 融雪出水の対応について
- ・ 春先以降は、融雪水による貯水池への影響を注意深く監視する必要がある。
- ⑦ 水質保全対策工事について
- 2号貯砂ダム下流部にも御嶽山噴火に伴う噴出物を含む土砂が堆積しており、融雪期の出水により貯水池内への流入が想定されるため、この区域の土砂のうち約10,000m<sup>3</sup>を目処に撤去する水質保全対策工事を水資源機構が追加実施する。

以上